

排出放射性物質による 環境影響に関する調査研究

六ヶ所村にある使用済核燃料再処理施設から環境中に排出される放射性物質の動きを明らかにし、住民が受ける現実的な被ばく線量を正確に評価できるように調査研究を進めています。これにより、再処理施設が運転開始後、中長期間にわたる現実的な被ばく線量を推定・評価することが可能となり、周辺住民、農林水産物の安全の確保に関する貴重な情報となります。この評価結果を住民の方々に広く発信し、安心につなげていくことを目指しています。

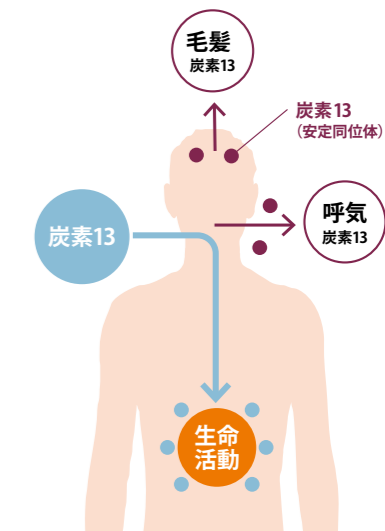
現実的な被ばく線量を評価

放射性物質が環境中をどのように移行し、人や農林水産物に影響を与えるか、モデル化し、被ばく線量を推定します。



人体内に取り込まれた放射性物質の動きを明らかにします。

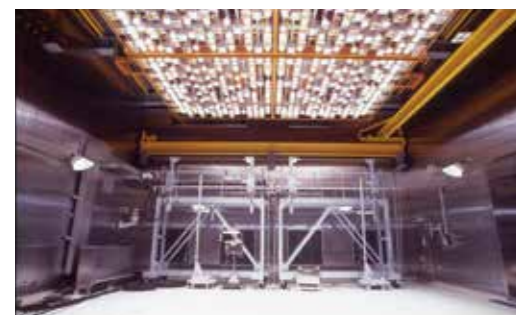
放射性炭素の体内での動きを明らかにするために、安定同位体(炭素13)を実際に人へ投与して調査



六ヶ所村特有の環境に即した放射性物質の移行を
野外観測と屋内実験から明らかにします。

全天候型人工気象実験施設

環境放射能研究用では国内最大。やませ気象等の青森県内のあらゆる気象条件が再現可能



ユニークな屋内実験が可能

六ヶ所村内でフィールド調査



村内の沼や所内圃場等で試料を採取し、各種測定を行っている

青森県の主要農林水産物への
放射性物質の移行(動態)を調べます。

トリチウム高度分析システム

有機物に含まれるトリチウムを分析可能で、精度は国内随一

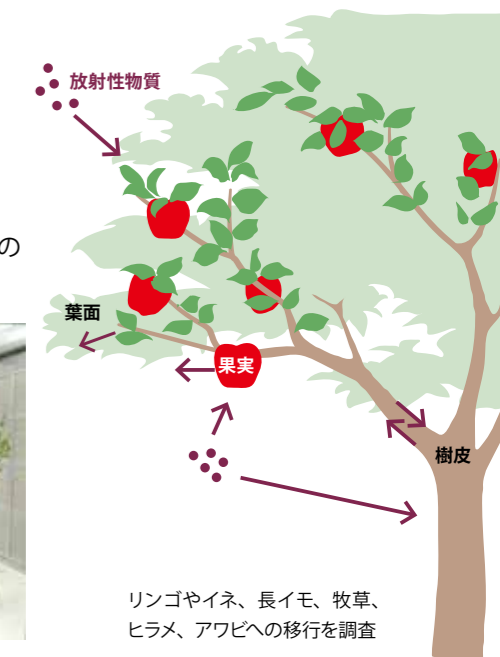


生態系実験施設

高密閉状態の下で環境を制御。ガス状の安定同位体を植物にばく露可能



ユニークな屋内実験が可能



リンゴやイネ、長イモ、牧草、ヒラメ、アワビへの移行を調査